

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

| | | | | | |
|------|----|-----|----------|-----|-------|
| 学校番号 | 19 | 学校名 | 天竜特別支援学校 | 記載者 | 湯本 健治 |
|------|----|-----|----------|-----|-------|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

| | 取組目標 | 成果目標 | 自己評価 | 関係者評価 | 意見 |
|----|-------------------------------------|--|------|-------|---|
| 守る | 実際的な危機管理体制を構築し、様々な緊急時への対応力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時における行動や役割を理解・判断し、行動することができたと答える教職員 100% ・自他の命や健康を大切にす言動が増え、非常災害訓練等では命を守る行動がとれたと答える児童生徒 100% | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に考え行動できるような事前学習や訓練の実施が評価できる。 ・引き続き、マニュアルの随時見直しや訓練の繰り返しにより緊急時における組織的対抗力の向上を図ってほしい。 |
| | 多様性を認め、自他を尊重し高い人権意識を持った児童生徒と教員 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の人権意識が高まったと答える教職員 100% ・児童生徒間・教職員間で挨拶や感謝等の言動が増えたと答える教職員 100% ・児童生徒の人間関係や学習上・生活上の困り感の把握に努め、早期に対応したと答える教職員 100% ・自立活動や道徳教育等の充実を図れたと答える教職員 100% | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・「人間関係づくり」の取り組みについて評価できる。 ・社会活動等自己肯定感を高める取り組みを推進し、自分の良さに気付く児童生徒の育成に努めていただきたい。 |
| 育む | OJTによる学校力の向上を高める | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の基礎・基本の理解を深め、自ら専門性の向上に繋がる取組を実施した教職員 100% | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の体系化を図り、計画的な取り組みにより組織的な実践を進めていくとよい。 |
| | ICT機器等を効果的に活用した授業実践を展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、ICT機器やデジタル教材を効果的に活用し、児童生徒の興味関心や理解が深まったと評価する教員 80% ・ICTを活用した復帰支援やリモート学習が増えた答える教職員 100% | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の有効活用やリモート学習により、学習の質・量が高まっている様子が分かった。 ・将来的な就業にも活用できるため、継続してほしい。 |
| | 病弱教育の専門性の向上を図り、その専門性に基づく効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習意欲向上に有効だと思われるので、ICT活用による授業改善を継続してほしい。 ・授業改善の効果を明確にした |

| | | | | | |
|------|--|---|---|---|--|
| | 的な実践を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 行うことができた教職員 100% ・整理図をもとに適切な目標と指導内容を設定し、児童生徒の成長を促す実践ができた教職員 100% | | | <p>上で、更にその効果を高める方法を考えていきたい。</p> |
| つなげる | みゅうの丘や地域・他機関との連携により、協同学習を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・みゅうの丘や地域・外部機関の人材を活用した授業や地域や交流校と共に取り組む活動を実践できたと答える教職員 100% ・ホームページの計画的な運用及び授業や行事ごとの更新 100% | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等生徒が地域に出掛けていく取り組みが大変評価できる。 ・将来的な社会参加に向けてもコミュニケーション力は大切なので、外部とのつながりの中で学習する取り組みは継続してほしい。 |
| | 個別の教育支援計画に基づいた連携体制を確立する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を基に、原籍校や他機関、保護者に支援や助言をし、連携できた教職員 100% ・児童生徒がなりたい自分イメージし、主体的に進路を決定したり、身近な将来の目標を考えたりする授業実践ができた教職員 100% | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・連携について外部評価アンケートが低かった項目の要因分析を丁寧に行うとよい。 ・キャリア教育の取り組みは重要。児童生徒が自らの将来を描けるよう連続性をもった支援や計画に基づいた体験の機会が必要。 |
| チーム | 「チーム天特」による全員参加の業務改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の設定した退勤時間を目指し、業務を計画調整した教職員 100% | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の業務が大変な中、努力されていることが分かった。 ・残業ありきの風潮をなくす業務環境を構築していただきたい。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・担当業務や行事の見直しを行ったり、改善したりした教職員 80% ・予算、施設管理等事務室と密なやり取りし、協働連携ができたと答える教職員 100% | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も風通しの良い「チーム天特」で一丸となった教育を期待する。 ・ICTを活用した業務改善等今までとは違った視点での見直しも必要だと感じる。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な会議の運営や効率的な会議への参加ができたと答える教職員 100% | A | A | |